

(宮本育昌氏)

皆さん、こんにちは。コーラル・ネットワークという団体の事務局長を務めている宮本です。これはボランティアの活動で、普段は会社に勤めています。本日は「市民によるサンゴ保全の取組について」をご紹介します。これまでの発表でも既にいくつか紹介されていますので、私は「市民としてこんなことができる」ということを中心に話をさせていただきます。

内容は、「市民によるサンゴ礁の白化状況の把握状況」、これはこれまでの発表の追加です。それから「市民ができること」。最後に「白化の対策」です。

昨年度の市民レベルでの白化の状況把握をまとめました。先ほど鈴木さんからWWFの話が出ましたし、山野さんからサンゴマップの話がありました。鈴木さんから白化状況を発信するという話もありました。私はリーフチェックという市民と科学者と地元の方々によるサンゴ礁のモニタリング、「サンゴ礁の健康診断」を国内で推進しており、2016年は16地点で実施しました。

後ほど写真もお見せしますが、先ほど比嘉さんのお話の中にもありましたように Google Street View が海の中にも入りました。これも白化現象のデータを取っていると言えます。また、サンゴマップでは、「全体的に白化した」「部分的に白化した」という状態をこのマップ上に掲載しています。私もサンゴマップを2008年に立ち上げた時から実行委員を担っており、山野さん・鈴木さんたちと一緒に進めてきました。昨年は、これから白化するという予測があったので、知り合いのマスコミの方をお願いして新聞に載せていただき、自分たちでもSNSやメール等で発信して、一生懸命にデータ登録を増やす努力してきました。

ポスターがないということで画像を若干お見せしますが、これは白化状況発信プロジェクトです。「八重山地区」「宮古地区」のボタンを押すと写真が入れ替わります。それぞれの写真には、どこの地点で誰が撮ったかという情報が掲載されています。このポスターのPDFが掲載されており、A3版でダウンロードができるようになっています。

リーフチェックがどのようなものか御存知ない方も、もしかしたらいらっしゃるかと思うので御紹介をします。モニタリングの一手法で、水中に100mのメジャーを引き、魚類・無脊椎動物・底質について調査するものです。「素晴らしいサンゴ礁をいつまでも楽しむ」ために、「みんな」で「年1回」実施します。1997年から世界中で実施されており、日本でもこれらの地点で実績があります。黄色い地点は昨年度も実施をしています。白い地点は残念ながら継続していません。私は渡嘉敷島と石垣島のフサキ沖を担当しています。フサキ沖のリーフチェックを5月の半ばに実施しますので、もしボランティアとして参加いただける方がいらっしゃいましたら、ぜひお願いしたいと思います。

調査結果はリーフチェックのホームページに載せています。サンゴのマークはデータがあるという印です。このように各地のデータを集めています。時々、台風などのため中止になることもあります。

この写真はGoogle Street Viewの一覧です。右下の写真だけサンゴ礁ではなく玉泉洞で、それ以外はサンゴ礁域です。それぞれ見ていただくとお分かりのように白化しています。こ

ちらはさきほど発表があった恩納村です。一つだけ拡大をします。竹富の南です。これは一部分だけ見えているのですが、Google Street Viewのストリートマップでは、画面をつかんで回すことができます。上にも下にも一緒にぐるぐる回せます。皆さんのお手元のパソコンでインターネットにつないでいただいたら、それらを見ていただくことができます。これは市民ではなく企業ですが、民間の取組の一つです。この取り組みをもっとたくさんの地点で実施すれば、これらも一つのデータになると思っています。

これらの取り組みを踏まえ、市民ができるサンゴ礁保全についてお話したいと思います。今日来ていただいている方には、研究者・専門家の方が多いと思いますが、一般参加をしていただいている方々には市民の方も多いと思いますので聞いてください。

私が普段住んでいる神奈川県はサンゴ礁域ではありません。自分自身がサンゴ礁域を訪れるのは年間せいぜい1週間以内ですから、サンゴ礁域に対して直接貢献できることは非常に少ないのが実情です。そこで、市民が都会でできることを中心に考えてきました。それは、「気候変動を抑制する」、「サンゴ礁の状態を記録する」、「発信する」、「保全を支援する」です。

具体的に説明します。「気候変動抑制」については、まずより一層の省エネを楽しく実施することです。「楽しく」の部分は議論になるところかも知れませんが、我慢する省エネは続かないと考えています。都会の人が一番貢献できるのがこれだと思っています。逆に言うと、沖縄に住んでいる方にはあまり響かない点かもしれないのですが、沖縄でも実はできることがあります。それは再生可能エネルギーの使用量を増やすことです。電力が自由化したので、どこの電力でも買えます。沖電の電気じゃなくても、再生可能エネルギー100%の電力会社と契約してそれを買うこともできます。そういう人が増えていけば、再生可能エネルギーの生産量が増えていくのでCO₂が減ります。それから、ゼロエネルギー住宅を作り出している会社が2社くらいあります。それを買うというのも、沖縄の気候風土に合っているかどうかという懸念はありますが、できることです。そして投資です。最近、社会的責任投資が流行っており、グリーンボンドについて少し前に環境省もガイドラインを出しました。こういうものに投資する。それからいろんな会社の株式を買い、株主総会で発言する。こういうことをやっていくと、より気候変動を抑えることができます。当然ながら我々は市民として政策を提言する、もしくは政策を支援するという役割もあります。

次に、「記録をする」です。モニタリングはボランティアとして自分で実施するだけでなく、いろんな組織に「モニタリングが必要ですよね、やってください、やりましょう！」とすることができます。これは他人任せに聞こえるかも知れませんが、正直都会に住んでいる人にはなかなかモニタリングに参加する機会がありません。ですから、せめてお願いをして、「じゃあやってあげようか」という人たちを増し、当然ながら言うだけではなく支援する、寄付する、会員になるということが出来ます。

そして「啓発、発信」です。沖縄でもそうかも知れませんが、残念ながら、多くの方はサンゴ礁のことを知りません。私はサンゴ礁が大好きですし、ここにいらっしゃる皆さんもき

っとそうだと思います。でも、私が都会でサンゴ礁の啓発を20年近くやっていて思うのは、本当にサンゴ礁のことを知っている人が少ないのです。ましてやサンゴ礁の危機についてはもっと知られていません。先ほどの話の中でもありましたが、白化したサンゴを「美しい」と思い、そのあとで真っ茶色になってぼろぼろになっていくということまでは思い至りません。サンゴが白いのはどんな状態か、人間でいうと病気で危険で死にそうな状態だということを知っていただき、だからこういう保全の取り組みをやっていこうよ、と伝えています。ただ、危機だけ伝えてもあまり人は動きません。何をしたらいいか教えてあげることが必要です。「教えてあげる」というのはとてもおこがましい言い方かもしれませんが、言い換えれば「提案する」です。人の心に響くものは色々あります。様々な種類の取り組みを、色々な機会に提案することで、何かできるようになると思っています。ここでも、私たちができることの一つに政策提言があります。

最後に「保全支援」ですが、最初は「自分も応援していますよ」と言うだけでもいいと思います。言っていると、そのうち自分でも何かしたくなると思います。イベントに参加する、寄付する、購入する、というもできます。まだ私が知らないだけかもしれませんが、ふるさと納税でサンゴ礁を保全している行政がもしあったらぜひ教えてください。私もPRしたいと思います。別の生態系や別の社会課題についてのふるさと納税があるのは知っています。行政の方には、ぜひこのような仕組みを作っていただきたいと思っています。それから「サンゴ礁保全に取り組む企業を応援する」ために「その企業の商品を買う」という手があります。それから当然ボランティアがあります。例をご紹介します。つい数日前まで沖縄タラ号がいました。「イベントに参加する」の例として3月21日に東京であったタラ号のシンポジウムを紹介します。私も登壇させていただきました。タラ財団は、アニエスベーという服飾メーカーが設立・支援しています。ですから皆さんがアニエスベーの服を買って、その際に「タラ号の活動は素晴らしいですね」とお店の人に言うことがサンゴ礁を保全することになります。もうひとつ、オーストラリアの研究所の「50 REEFS」という白化に強いサンゴ礁を探そうというプロジェクトをティファニーの財団が支持しています。ですから皆さんがティファニーに行って「この活動は素晴らしいですね」と言うと、サンゴ礁の保全になります。このような取り組みをする企業が増えるように、私はこれらの企業を支援したいし、していく必要があると思っています。

最初にお話をしたように、私自身は普段は企業に勤めています。某メーカーで環境の仕事を5年くらいしています。本社勤務なので、全社の経営に関わっています。その中で思うのですが、企業は当然ながらお客様の顔を見ています。姿勢も見ています。ですからお客様として企業にサンゴ礁に関わることに取り組むよう声を上げていくことが非常に重要です。黙っていると何も動きません。言うと、動いていきます。先ほど私は株式を買って株主総会で発言するというのを言いましたが、そうでなくてもお客様として企業に働きかけることができます。企業CO2をたくさん出しています。市民もたくさん出していますけれども。それに対処するために企業に働きかけるのも重要な手段だと思います。そういう意味で市

民の立場からの白化対策としては、ひとつは、市民ができることを盛りあげていくことだと考えています。気候変動抑制、モニタリング、発信、支援。できることから先に取り組んでいく。

もう一つ考えているのは、マルチステークホルダーの連携の推進です。今回、私がこの会議に出席させていただくことになった時に仲間に使われたのですが、記者発表の登壇者リストに若者と女性がいなかった。比嘉政務官は女性でいらっしゃるんですけども、専門家の中にはいない。それから企業は金城さんのみで都会にある企業の方はいない。それらの人・組織とも連携して、取り組みを強化していきたいと思っています。

それから政策提言です。何度も何度も「政策提言する」と書いていますが、今日の会議の提言にしてもそうですが、実行することが重要だと思います。色々な会議でとても良いことが言われてきました。それをやらなきゃいけないと思います。それらが実施されために、市民としてどう応援したらいいか。要するに税金をどうサンゴ礁保全につけるように仕向けるかということについて、沖縄の方は納税者ですから県に対して働きかけられると思います。私は県外在住の立場で何か貢献したいと思っています。

そのような問題意識から、私は生物多様性条約などの国際会議に参加し、国際レベルのサンゴ礁保全の取り決めを日本の政策に反映したいと考えてきました。その一つが国際サンゴ礁年の活動だと考えています。来年 2018 年は第 3 回国際サンゴ礁年です。第 2 回目の時には、環境省が作った実行委員会に私もボランティアで参加しました。企業勤めなので、委員会がある日は半休を取って参加をしました。そのくらい昔からずっと私はサンゴ礁保全の普及啓発に取り組んできましたが、そのような人はもっとたくさんいると思います。来年の国際サンゴ礁年はもっとたくさんの方の力を活用して、できるだけ連携して、世界とも連携して盛り上げていけたら、と思っています。市民にはそういう力があるし、もちろん研究者の方々にもそういう力があると思います。ぜひ色々な方と一緒に取り組みたいと思います。

以上です。どうもありがとうございました。